

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-105	実施計画番号		事業開始年度	H27
事務事業名	肉用牛主産地づくり事業			事業終了年度	
担当課名	農林畜産課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	肉用牛の主産地づくりを図るため、平成21年度から平成26年度まで、県外から導入されてきた「安福久」等の優良雌牛の血統を受継ぐ産子雌牛の確保を図るため、平成27年度から「優良雌牛保有支援事業」により、優良雌牛(県基幹雌雄牛の血統を受継ぐ産子雌牛及び期待育種価の高い雌子牛)を県家畜市場から保有目的で購入した場合に対し支援することで、十和田市内に優良雌牛を確保し、優良雌牛群の整備強化を図る。				
事務事業の目的	肉用牛の主産地づくりの一環として、優良な血統を受継ぐ雌牛の確保を推進し、繁殖雌牛群の整備強化を図ることを目的とする。				
実施状況	平成27年度から平成29年度までの実施、年間50頭を目標とし、3ヶ年で150頭の保有を図る。(平成27年度の見込み50頭の保有予定)				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		10	10
	人件費(千円)	0	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	5,000	5,000

【指標】

活動指標	活動指標名①		導入頭数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			頭		(50)	50
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		導入頭数			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		頭	目標値		50	50
			実績値		(50)	
			達成度(%)			
	成果指標名②					
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
			実績値			
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">青森県家畜市場の子牛価格が高騰していることもあり、畜産農家の優良雌牛確保のための経費の軽減を図り、優良雌牛の保有を図るため平成29年度までは、このまま継続していく。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	青森県家畜市場の子牛価格が高騰していることもあり、畜産農家の優良雌牛確保のための経費の軽減を図り、優良雌牛の保有を図るため平成29年度までは、このまま継続していく。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
青森県家畜市場の子牛価格が高騰していることもあり、畜産農家の優良雌牛確保のための経費の軽減を図り、優良雌牛の保有を図るため平成29年度までは、このまま継続していく。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">県家畜市場において、これまで県外導入してきた「安福久」等の血統を受継ぐ産子雌牛等も多く上場されていることから、市内に優良な雌牛を残し肉用牛の主産地づくりを図るため、有効な事業である。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	県家畜市場において、これまで県外導入してきた「安福久」等の血統を受継ぐ産子雌牛等も多く上場されていることから、市内に優良な雌牛を残し肉用牛の主産地づくりを図るため、有効な事業である。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	県家畜市場において、これまで県外導入してきた「安福久」等の血統を受継ぐ産子雌牛等も多く上場されていることから、市内に優良な雌牛を残し肉用牛の主産地づくりを図るため、有効な事業である。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	6					
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">補助金交付要綱の作成、申請書受理、実績報告受理、補助金の支払い業務であり、特に時間を要するのが事務事業評価に係る報告等の事務である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	補助金交付要綱の作成、申請書受理、実績報告受理、補助金の支払い業務であり、特に時間を要するのが事務事業評価に係る報告等の事務である。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	補助金交付要綱の作成、申請書受理、実績報告受理、補助金の支払い業務であり、特に時間を要するのが事務事業評価に係る報告等の事務である。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田市黒毛和種改良組合の組合員を対象に募集しており、ほとんどの黒毛和種の飼養農家が対象となっているので、公平性は特に問題はない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	十和田市黒毛和種改良組合の組合員を対象に募集しており、ほとんどの黒毛和種の飼養農家が対象となっているので、公平性は特に問題はない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
十和田市黒毛和種改良組合の組合員を対象に募集しており、ほとんどの黒毛和種の飼養農家が対象となっているので、公平性は特に問題はない。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択)

⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
これまで、県外導入により導入してきた、「安福久」等が県家畜市場に多くの頭数が上場され、市場価格の高騰により高値で取引されていることから、購入費用の一部を支援し保有を促進する。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
これまで、県外導入により導入してきた、「安福久」や県基幹雌雄牛等の優良な血統を受継ぐ産子雌牛が、十和田市内に保有されるよう支援し、優良雌牛群の整備強化を図り、肉用牛の主産地づくりを目指す。